

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第3区分

【発行日】平成26年5月15日(2014.5.15)

【公開番号】特開2012-210667(P2012-210667A)

【公開日】平成24年11月1日(2012.11.1)

【年通号数】公開・登録公報2012-045

【出願番号】特願2011-76896(P2011-76896)

【国際特許分類】

B 2 4 B 9/14 (2006.01)

【F I】

B 2 4 B 9/14 A

B 2 4 B 9/14 H

【手続補正書】

【提出日】平成26年3月28日(2014.3.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

眼鏡レンズを保持するレンズチャック軸と、玉型データ及び玉型に対するレンズの光学中心のレイアウトデータを入力するデータ入力手段と、レンズチャック軸に保持されるレンズが右か左かの選択信号を入力する左右選択手段と、を備え、左右選択情報及び入力されたデータに基づいてレンズチャック軸に保持されたレンズの周縁を周縁加工工具によって加工する眼鏡レンズ周縁加工装置において、

前記レンズチャック軸に保持されたレンズの外径及び屈折面形状の少なくとも一方を検知するレンズ形状検知手段と、

前記レンズ形状検知手段の検知結果、前記レイアウトデータ及び左右の選択情報に基づき、レンズチャック軸に保持されたレンズの左右の間違の有無を判定する判定手段と、
を備えることを特徴とする眼鏡レンズ周縁加工装置。

【請求項2】

請求項1の眼鏡レンズ周縁加工装置において、前記判定手段は、前記レンズ形状検知手段の検知結果から所定の演算によりレンズチャック軸に保持されたレンズの光学中心位置を推定し、推定した光学中心位置とレイアウトデータ及び左右選択情報より求めた光学中心位置とを比較することによってレンズの左右の間違の有無を判定することを特徴とする眼鏡レンズ周縁加工装置。

【請求項3】

請求項1又は2の眼鏡レンズ周縁加工装置において、玉型に基づいた加工済みレンズをさらにサイズ調整するための二度摺り加工モードに移行するモード移行手段を有し、
前記判定手段は、二度摺り加工モード移行時に、前記レンズチャック軸に保持された加工済みレンズについての前記レンズ形状検知手段の検知結果及び左右の選択情報に基づいてレンズチャック軸に保持されたレンズの左右の間違の有無を判定することを特徴とする
眼鏡レンズ周縁加工装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

上記課題を解決するために、本発明は以下のような構成を備えることを特徴とする。

(1) 眼鏡レンズを保持するレンズチャック軸と、玉型データ及び玉型に対するレンズの光学中心のレイアウトデータを入力するデータ入力手段と、レンズチャック軸に保持させるレンズが右か左かの選択信号を入力する左右選択手段と、を備え、左右選択情報及び入力されたデータに基づいてレンズチャック軸に保持されたレンズの周縁を周縁加工工具によって加工する眼鏡レンズ周縁加工装置において、前記レンズチャック軸に保持されたレンズの外径及び屈折面形状の少なくとも一方を検知するレンズ形状検知手段と、前記レンズ形状検知手段の検知結果、前記レイアウトデータ及び左右の選択情報に基づき、レンズチャック軸に保持されたレンズの左右の間違いの有無を判定する判定手段と、を備えることを特徴とする。

(2) (1)の眼鏡レンズ周縁加工装置において、前記判定手段は、前記レンズ形状検知手段の検知結果から所定の演算によりレンズチャック軸に保持されたレンズの光学中心位置を推定し、推定した光学中心位置とレイアウトデータ及び左右選択情報より求めた光学中心位置とを比較することによってレンズの左右の間違いの有無を判定することを特徴とする。

(3) (1)又は(2)の眼鏡レンズ周縁加工装置において、玉型に基づいた加工済みレンズをさらにサイズ調整するための二度摺り加工モードに移行するモード移行手段を有し、前記判定手段は、二度摺り加工モード移行時に、前記レンズチャック軸に保持された加工済みレンズについての前記レンズ形状検知手段の検知結果及び左右の選択情報に基づいてレンズチャック軸に保持されたレンズの左右の間違いの有無を判定することを特徴とする。